

高千穂あまてらす鉄道

日本と天照大神の神話に捧げられた土地が、天を照らす大いなる神（天照大神）にちなんで列車を名付けるのは自然なことのように入えます。神楽など、この地域への関心の高まりに対応するために、高千穂あまてらす鉄道は、2017年に30人の幸運な乗客を収容できる新しいディーゼル駆動のスーパーグランド車両を導入しました。30分の列車の旅は、白い背景に明るいピンクの模様が施された車両で、鉄道の旧線路の2.55キロメートルを走ります。天岩戸神社、荒立神社、また、スーパーグランド車両の導入の2年ほど前、2015年12月に国連によって世界重要農業遺産システムとして認められた高千穂の美しい棚田などの史跡を含む、トンネルや風景の中を走ります。高千穂鉄橋の上の高所に登った時に驚かないよう注意してください。高千穂鉄橋は長さ353メートルあり、かつて日本で最も高い鉄道橋でした。

トンネルにはカラフルなライトが輝いており、高千穂鉄橋の頂点に達すると、ガラスの床から105メートル下の景色を眺めることができます。列車から見える岩戸川流域、棚田、周囲の山々の中には、季節によって色が変わるものもあります。スーパーグランド車両は、40分ごとに車庫を離れ、1日10回運行している（木曜日を除く）。車庫については、旧駅舎とホームがまだ保存されており、車庫は空いていて、古い列車が職人技で維持されていた場所を確認することができます。